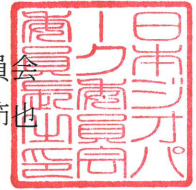


2022年2月21日

五島列島ジオパーク推進協議会
会長 野口 市太郎 様

日本ジオパーク委員会
委員長 中田 節也



第44回日本ジオパーク委員会審査結果通知書

2022年1月28日に行われた第44回日本ジオパーク委員会において、貴地域、五島列島（下五島エリア）ジオパークは新規認定となりました。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここに通知します。

【総評】

五島列島ジオパーク構想は2019年の新規申請の認定見送りの際の指摘事項を受けて、ジオパークの理念を協議会内や関係者および地元住民で課題を共有しながら議論し、指摘された課題の多くに対応してきた。2名の専門員採用、基本計画とアクションプランの見直し、盗掘のある水晶岳の地質サイト指定、解説看板の見直し、自然と文化サイトの設定と活用、拠点施設の整備の具体化などが進んだ。また、SNSを活用した紹介動画の配信、市広報誌への連載などが、民間レベルでの自発的な取り組みにつながった。学校では「ふるさと学習」の中でジオパークの理解が深まり、生徒達の積極的な参加に結び付いた。さらに、学術顧問やネットワークなどの協力を経て、ジオガイド認定の仕組みが確立され新しくジオガイドが育成された。

一方で、自然、歴史、文化的素材およびそれに関係する人材を十分に活かしていないこと、目の前の景色や地質と、植生の多様性や文化・歴史とを上手く連動させたガイディングとはなっていないことなど、未解決の課題も残されている。

【優れている点】

- ・地域の魅力を紹介する「五島列島ジオチャンネル」や「GOTO!ジオの声」など多数の動画のYouTubeでの公開、行政広報誌への「GOTO!ジオ通信」の連載、その他の関連イベントを経て、市民のジオパークの認知度と理解が高まった。
- ・基本計画とアクションプランが見直されるとともに、ジオパークの推進母体である五島市の第2期総合戦略の中にジオパーク推進事業が明記された。
- ・奈留や岐宿、富江、崎山地区などで見られるように、地域団体や事業者がジオパーク活動へ自発的に参加するようになった。
- ・「ふるさと学習」の中でジオパークの理解が進み、生徒の惑星地球フォトコンテスト入賞、ジオ関連フードの発案、さらには、Tシャツデザイン作成につながった。

【今後の課題・改善すべき点】

- I 緊急に着手ないし解決すべき課題（おおむね1年以内）

1. 可視性及び世界遺産との重複：ジオパークの見どころ、アクセスなどの情報を HP で分かりやすく紹介してほしい。また、世界遺産地域がジオパークであり、そこにおいても、地形地質が風土と結びついていることが伝わるような整備を進めてほしい。
2. 水晶岳の保全：貴重な日本式双晶の保全の必要性を来島者や住民に自覚してもらうことがジオパークとして重要である。ガイド付きツアーでのみアクセスし、盗掘により荒れた現場を公開し保全の重要性を訴えることも考えてほしい。

II できるだけ早く解決すべき課題（2年程度）

3. エリア拡大の戦略：五島列島全域へのエリア拡大実現を目指す青写真と戦略を作成してほしい。
4. ビジターセンタースタッフとガイドの連携：鑑瀬ビジターセンターにいる動植物に詳しいスタッフとジオガイドとが十分な情報を共有できるような体制、連携関係を構築することが望ましい。
5. 溶岩トンネルの保全と活用：井坑や周辺の野坑内の生態系への影響や安全を考慮した活用について、保全活動に関わってきた団体や地元住民と議論を進めてほしい。
6. 気候変動と自然災害：漁業組合や真珠養殖業者と連携し、気候変動の影響がどう出ているかを分析し、学校教育やツアーに活用することが望ましい。
7. ツーリズム：「大陸との懸け橋」をキャッチフレーズとするのであれば、その背景となる生活・文化・歴史とジオの関係についてもっと考えてほしい。また、現在、連携が不十分なアウトドアアクティビティ業者の参加を視野に入れることが望ましい。

III 中長期的に解決すべき事項

8. 無形文化遺産の保存：円畑や富江の石文化、スケアンなど、失われつつある五島の無形文化とその土地の知識を記録として残すために、コミュニティ参加型の研究・教育活動を検討してほしい。
9. 教育プログラムと研究の推進：ジオパーク学習を、進級に応じてステップアップできるように進めてほしい。また、ジオだけでなく、生物相、歴史文化、防災を取り入れた教育プログラムの作成が望ましい。さらに、五島層群堆積と日本海形成や大陸との繋がり時代の時代変遷について、日本列島全体を考慮した分かりやすい科学的解説が必要である。
10. 推進協議会におけるジェンダーバランス：協議会や事務局においてもジェンダーバランスについて、早い時期に計画を見直すなどの努力をしてほしい。

以上に指摘した点や現地調査で指摘された点を含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、半年以内に日本ジオパーク委員会に報告してください。それらの進捗については、4年後の再審査の際の審査対象とします。

以上